

Castelo de Guimarães

について



写真: Direcção Regional de Cultura do Norte

この城の存在によって、ポルトガル史の初期を巡る伝説、詩、英雄伝の心躍るような交錯が呼び覚まされます。当時のラテン語の文書で「アルピス・ラティタス (alpis latitus)」と称されていたこのモンテ・ラルゴ (広い丘) の上に、後のポルトガル国家の中核が築かれました。968年頃に、ガリシア伯爵夫人ムマドナが、この地に城を建てるように命令を出しました。その理由は、ヨーロッパ北部から海を渡ってやって来たバイキングの群れと、南部の領土から急襲を行ったイスラム教徒とによる度重なる攻撃から人々が避難できるようにすることでした。義父のレオン国王アルフォンソ6世からポルトゥカレンセとして知られたこの地方の統治を引き継いだヘンリー伯爵は、より大規模で強固な建造物をもう1つ建てるよう命令を出しました。これは、城壁の四隅をそれぞれ守っている4つの塔の間に、正方形の本丸がそびえ立つ、私たちが今日見ることのできる重要な防衛的構造の始まりを表しています。厳密には文書に残されていませんが、北側の城壁の内側の部分に背を向けて立つ建物はヘンリー伯爵の住居で、ポルトガルの初代国王アフォンソ・エンリケが生まれた場所であると考えられています。この城は、ポルトガル王国の発祥にまつわる軍事史に密接に関係があり、すなわち1127年に、アフォンソ・エンリケが隷属から抜け出すために彼のいとこのレオン国王アルフォンソ7世と様々な戦いを繰り広げた場所です。また、ここは彼の家庭教師をしていたエガス・モニス (Egas Moniz) によって示された偉大な滅私の精神とも関連しています。エガス・モニスは、王子がアルフォンソ7世の包囲攻撃を打ち負かすことができないと悟って隷属の誓約をした時に、王子の誓いの保証人 (人質) となりましたが、その後、攻守が逆転し始めると、王子は彼を裏切りました。14世紀の終わりまで、多くの勇ましい戦いがこの城で繰り広げられ、城を治める王朝の一連の紛争によって、独立が脅かされていた新興のポルトガル王国の統合を守りました。ギマランイス城は、当時存在した他の城のように、新しい形態の砲術の出現により、その栄光の日々の終りを迎えました。時の経過により廃れ、人々から見はなされていたこの城は、20世紀前半にいいいに修復が行われ、元の壮大さと美しさを取り戻しました。

問い合わせ先

Rua Conde Dom Henrique 4800-412 Guimarães
電話 : +351 253 412 273 / 226 197 080
Eメール: pduques@culturanoorte.gov.pt
ウェブサイト: <https://pacodosduques.gov.pt/monumentos/castelo-de-guimaraes/>

ソーシャルネットワーク <https://www.facebook.com/PacodosDuques/>
<https://www.instagram.com/pacodosduques/?igshid=1q3zkzsav937h>
<https://www.youtube.com/channel/UC83iDoylQMkdA6qGBNCbemA>

特色とサービス

ショップ

